

## 槍ヶ岳北鎌尾根

日程：2008年5月3日～5月5日

メンバー：L田中、白土、斉藤（記）

「北鎌」といえば超有名ルート。山友会入会前よりの憧れのルートである「残雪期北鎌」をやるという計画に、体力的な不安を抱えつつも楽しみで、やや興奮気味の入山を迎える事となった。

今回の山行は天候に恵まれ、長いアプローチや雪と岩のミックスルートを堪能でき、期待以上に楽しむ事が出来ました。

行程：

5/3 沢渡バス停6:30～7:00 上高地7:15～8:00 明神8:15～9:00 徳沢9:10～10:00 横尾10:15～12:05 槍沢ロッジ 12:15～13:10 大曲13:40～16:10 水俣乗越 16:20～17:05 北鎌沢出合（テン場）

5/4 北鎌沢出合5:40～7:40 北鎌のコル8:05～12:10 独標12:30～16:20 北鎌平付近（テン場）

5/5 北鎌平付近5:15～6:15 槍ヶ岳山頂6:25～6:40 槍ヶ岳山荘7:00～8:40 槍沢ロッジ9:10～10:25 横尾10:50～13:50 上高地

5/3

朝、前夜泊をした沢渡駐車場にて支度を済ませ、上高地行きのバスに乗り込む。私は初めての上高地という事で、バスの車中では車窓に張り付き、すっかり遠足気分になってしまった。大正池に映る雪を纏った穂高の峰々や梓川の流れは、写真では何度も見た事はあったが実際目の前にすると想像以上の美しさに感激してしまった。上高地に着くとバスと人の数に驚かされる。入山届を提出し、森の中へと歩き始める。梓川に沿った立派な登山道を進むと左手に明神岳が聳え立つ。横尾が近くなると屏風岩の巨大な垂壁を望む事が

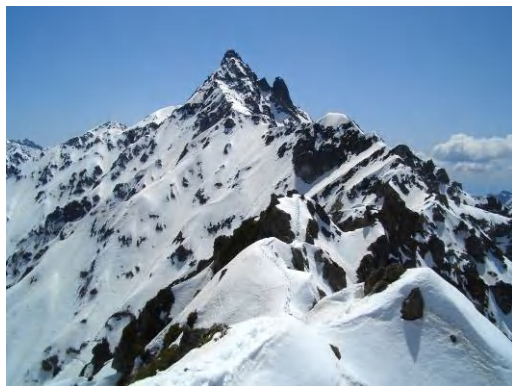
出来る。上高地から横尾までの間は4～50分間隔で明神館、徳沢園、横尾山荘があり、休憩するのに丁度良く、多くの登山者、トレッカーで賑わっていた。横尾を過ぎると道も狭まり、人の数もグンと減る。じょじょに傾斜が出始め槍沢ロッジに着く頃には、汗でビショビショになっていた。その先暫く樹林帯を進むと突然目の前が開け、槍沢カール地帯の末端に出る。谷が上流で左に大きく折れる地点「大曲」を目指すが一方向に近づかず、広大なスケールを感じる。左側の急峻な斜面より時折聞こえる雪崩の音に肝を冷やす。大曲でアイゼンを装着しながら、キツくなる登りに備え暫し休憩。東鎌尾根の乗越ルートにめぼしをつけいざ出発。バテバテ状態で水俣乗越到着。水俣乗越に着き、まず目に飛び込んで来たのは、槍の穂先より北に真っ直ぐに伸びた北鎌尾根だった。その鋸状の巨大な岩の塊の迫力に不安を感じてしまう。水俣乗越を北鎌側の谷へ急斜面を降る。その晩のテン場となる北鎌沢出合に着く頃には、長い一日の疲れが一気に出てグッタリといった感じであった。その晩は翌日に控えた北鎌への期待と不安で、酒も程々に早めの寝床に就く。



水俣乗越より北鎌尾根

5/4

前日に引き続き晴天。朝より強い日差しを浴びて、北鎌沢右股の厳しい登りを軽快に先行する白土さんに早くも遅れをとる。田中さんに足運びのペースの取り方を教えてもらう。白土さんに遥かに遅れて、北鎌のコルへの到着となった。左右にうねった雪稜をじょじょに登り、P9を越えると独標が目の前に立ちただかる。その大きさに息を飲む。独標上部の雪壁に先行パーティーを見つけ、ゴマ粒程の人の大きさに独標の大きさを再確認する。独標を中間部分まで登ると直上ルートとトラバースルートに別れる。田中さんの判断でトラバースルートに進路を取る事にする。すっぱり切れ落ちた雪壁のトラバースは冷汗ものであった。トラバースが終わると頭上のチムニーへと登り、そこから岩場を縫うように進み独標の頂上へと出る。暫く独標の影に隠れていた槍の穂先も目の前に姿を現しなかなかの絶景だ。



休憩後、バテてる私に田中さんが先頭を歩くようにと指示。焦らずに自分のペースで歩くようにと言われ、気分的に大変、楽になる。岩の小ピークを右に左に巻きながら、僅かずつ穂先へと近づいて行く。北鎌平へと後、僅かという所で、先行パーティーが槍の穂先に取り付く姿を確認する事が出来た。見ているだけでも恐ろしい。ヒヤヒヤしながら見届ける。明日は我が身だ。北鎌平を越えた岩陰にテントを張り一日の行動を終わりにする。翌

日は天候が崩れるらしく既に雲が出始めた。夜中、何度か風にテントが叩かれる音で目を覚ます。

5/5

朝から深い霧に包まれ風も出ている。いよいよ頂上アタックへ向けスタート。前日に見た先行パーティーの穂先に取り付く姿を思い出し緊張が走る。横風にバランスを崩しながら雪のリッジを登り、穂先の基部に辿り着く。ここからは浮石に気を付けての岩登りになる。霧で視界が利かぬ中でどこまで来たか予想をしながら岩を攀じる。そろそろいい所まで来たかな、と思った時トップの田中さんから、「着いたよ。」との声。焦る気持ちを抑え慎重に岩を攀じ、待望の山頂に到着。最後までノーザイルで来てしまった。霧で何も見えないが大きな達成感を得る事が出来た。田中さん、白土さんと固い握手を交わし、記念写真を撮り下山に向かう。登って来た方とは、逆側の一般登山道となる、鉄の梯子を慎重に降りる。梯子の後は鎖場が続く。霧の向こうから人の話し声が聞こえ始め槍ヶ岳山荘が近い事を知る。霧の先より建物の影が見え始め槍ヶ岳山荘に到着する。ここでやっとハーネスを外す。下降は広いカールを大曲まで降り。そこからは、元来た道を上高地へ戻る。槍ヶ岳山荘からの長いカール地帯を尻セードで降る。登りは大変だが降りにはアツという間だ。槍沢ロッジにて、アイゼンを外す。「北鎌」を登ったという達成感でそこからの長い道のりも、冷たい小雨も不思議と辛さを感じずに歩く事が出来た。明神を過ぎるとトレッカーの姿を多く見かけるようになり、上高地に近づいた事を知らせてくれる、と同時に終わりに近づく今回の山行への名残おしさを感じる。上高地に着くと帰り路につく人でごったがえしていた。皆、日に焼けて真っ黒な顔をしている。以外にもすぐバスに乗る事が出来、上高地を後にする。

今回の山行を終えて2週間前に行った白馬岳  
主稜に引き続き春山の楽しさを堪能する事が  
出来た。同行してくれた、田中さん白土さん  
のお陰だ。穂高周辺は行ってみたい所が沢山  
あるので是非また、足を運びたいと思います。



山頂にて田中さん白土さん